

第 2 回田尻町総合計画審議会意見の概要

■社会潮流と田尻町の課題（1）人口減少と少子高齢化の進行 に関連する意見

＜定住・転入促進・若者施策＞

- 適正な人口構成を維持していくために、新しい若い世代、特に子育て世代について、田尻町に転入を促進する施策が重要だ。（転入の補助、近居など）
- 田尻町は幼保小中一貫教育も、18 歳まで医療費が無料ということも魅力的だ。
- 転入促進の補助制度の周知のほか、外に対して田尻町の良さを発信していくことが重要だ。シティプロモーションを意識して、戦略施策に入れたらいいのでは。
- 地方から閑空関係等の仕事で来て移り住んだ人が、家庭を築いてマンションや戸建てを買って、田尻町に定住するように方向付けしていくとよい。
- 定住者向けに、旧市街地の中での建物リフォームの需要につながるとよい。

＜働く場所・就業の場所＞

- 大阪府の岸和田市以南の地域は就職には困らない実態がある。そこをもっと田尻町の良さとして取り込めるのではないか。
- 田尻町には、働く場所、就業の場所として閑空やりんくうエリアがあることは非常に有利なことだ。職住近接型の生活が可能なことは、これまでのベッタタウンとは異なる田尻町の魅力となり得る。
- 閑空だけでなく、田尻町に来て仕事がしたいと思えるような、IT 企業等違った業態の仕事、民間企業の誘致も必要ではないか。

■社会潮流と田尻町の課題（2）地域力の要請 に関連する意見

- 自治会そのものの弱体化が課題になっている。
- 青年団など、田尻町にある祭りを通して地域への郷土愛を感じてもらえるとよい。外部の人との交流も交えながら、意識的にどう伝えるか伝え方が大事だ。
- 人のぬくもりやお祭りなどを通じた人のつながりもまた重要だ。

■まちの将来像 に関連する意見

- 町が、面積が小さく人口が少ない、コンパクトであることは間違いない。10 年前にもコンパクトシティをうたっているので、今後はコンパクトという言葉から脱却してもいいのでは。

■土地利用構想 に関連する意見

- 閑空やりんくうエリアで働いている人の移動についての視点があってもいいのでは。
- りんくうタウンの駅まで行けるような交通機関の利便性を考えた方がいい。りんくうタウンへのアクセスは、町として、広域連携の中で展開を考えてもらいたい。

- 既成市街地をきちんと使いこなすことが必要、空き家の活用が重要だ。
- 駅上の開発で、閑空関連企業の人たちが住むことができる住宅地にすることも一つの方法だ。遊休農地化の防止にもつながる。
- にぎわい交流ゾーンの活性化の鍵として北広場をもっと戦略的に位置づけてはどうか。
- にぎわい交流ゾーンには、もう少し食事ができる所を誘致することが必要だ。人が集まる材料をつくらないと賑わいにはならない。
- 賑わいづくりには、個性化することで、元々は無い需要を起していく展開が必要だ。

■施策の大綱 に関連する意見

＜産業振興＞

- 漁師としての仕事は基本的には魚を獲ることだが、それでサラリーマン以上に利益を上げることは不可能だ。ルアーなどのスポーツフィッシングの方向にいかないといけない。専門家を呼び組合員に勉強してもらい、利益を上げていけるよう進めている。
- 従来型の 1 次産業で魚を獲って売るのはではなく、どう付加価値化していくか、新しいニーズに合うような漁業へどう転換していくかが課題だ。
- 葉物のような年寄りでもできる農業でないと続かないが、それでは価格は安定しない。
- 農業も漁業も、(アレルギー体質に対して安全な食材の提供など) 出口の消費と一体化した形の特徴を際立たせる展開が必要だ。

＜国際化・教育＞

- 国際化といっても、単に小学校で英語を教えるのがすべてではないと思う。(今はアジア系の外国人が多く、中国や韓国の人には英語は話さない。)
- 町では一貫校になっているので、できるだけ英語力、英会話力に力を入れたらいいと思う。
- 保幼小中一貫教育を進めるには立地条件を考えなければならない。
- 学校は教育施設だけではなく、安全安心での連携で地域の拠点施設としていけるとよいのではないか。